

## 第 5 回協議会における主な意見のまとめ

### <第 1 章 基本方針の背景について>

- ・早期着手が必要な取り組みという抽象的な表現だけでなく、具体的な時期や計画を明記した方が現実味が出る。
- ・これまでの取り組み経緯は、次に何が起こるのかということが少しわかりにくい。市民といっしょから一緒に考えていくのか、今後の基本計画の予定についても表記すると良い。

### <第 2 章 公共施設の現状と課題>

- ・乗降客数の数値は何を示しているかを明確にした方が良い。また、どの駅で増えているのかなどトレンドが示せると面白い。

### <第 3 章 基本方針>

#### ○ 基本理念について

- ・基本理念のフレーズを表紙に載せてはどうか。

#### ○ 基本方針全体について

- ・基本方針の文章は長くすると冗長となりかねないため、現状の内容が限度だと思う。
- ・「機能重視」、「効率的・効果的」、「安全・安心」という言葉が少し硬いので、公共施設が活性化し、東村山市のまちがいきいきとするような良いイメージの言葉があると良い。
- ・「先進市」という言い方ではなく、「参考にすべき他市の事例」とした方が良い。

#### ○ 基本方針 1 について

- ・多機能化のメリットは誰に対してのメリットなのかわかりにくい。①は施設を使う人、②は施設を造る側、③は施設利用者、④は民間事業者にとってのメリットとなる。
- ・仙台のメディアテークのように図書館と情報センターを複合化し、建物が好評で利用を得ている事例や、京都のマンガ館でも利用者が多くなっている事例がある。

#### ○ 基本方針 2 について

- ・PFI や PPP については、用語の説明だけでは、今後どのように将来に繋げていくのかわからない。
- ・各方策では、長所と短所がある。PFI も良いことばかりではない。
- ・武雄市図書館は、図書館のあり方としては賛否両論がある。

#### ○ 基本方針 3 について

- ・ライフサイクルコストは造るのが 2 割、その他が 8 割と言われている。そのため、維持管理しやすいデザインビルドするということも触れておくと良い。

#### ○ 基本方針 4 について

- ・タテ割りの問題は、市役所内部の話だけでなく、国や東京都の組織から生じる問題もあり、市民に理解してもらうためには、そこまで触れておくと良い。

- ・今は、タテ割りの弊害を打破するための環境が整いつつあるため、そのことを明記すると良い。
- ・公共施設を造ると国や東京都からどれくらいの補助金が出るか、整理することは難しいか。

#### <第4章 公共施設再生計画の推進に向けて>

- ・個別施設の課題に対し、どのような順番で対策を実施していくか考えなくてはならない。
- ・早期着手の取り組みの中でも、優先的にやるべきものなど温度差がわかるように示した方が良い。
- ・市民との連携だけでなく、国や民間企業との連携も入れると良い。
- ・公共施設は市民の財産なので、愛着やオーナーシップを高めることも必要。市民の連携と表現すると、管理する側と市民が分かれ、顧客としての市民の理解というニュアンスが強くなる。

#### <今後のアクションに対する各委員からの提案>

##### ○ サービスの適正化の検討について

- ・ふるさと歴史館や八国山たいけんの里は、利用率が悪いから単純に廃止するという視点ではなく、まちを活性化して周遊させる方法を考えることが重要である。
- ・東村山市は駅が多いという特徴を活かし、送迎バスを利用して保育園の送り迎えを駅前で行えるようなサービスも考えられる。

##### ○ 施設の複合化・多機能化の検討について

- ・複合化、多機能化、統廃合等によって柔軟に施設を維持・改修を行っていくことが重要である。
- ・モデルケースには、新築で行うケースと既存建物を再生するケースを実施してみてはどうか。
- ・時間帯で利用者が限られる放課後児童クラブについては、空いている時間帯を別の機能として利用することも考えられる。
- ・学校は、支出が高い、面積が大きい、耐震化が済んでいるという視点から、コスト削減効果や建物の利用価値が大きいと考えられる。
- ・子育て支援と高齢者施設の複合化については、世代間や行政を超えたコミュニケーションが有効に働くことも考えられる。

##### ○ 再編・再配置の検討について

- ・野口町に新設する集会所は、集会所としての単体機能だけでなく、観光や買物ができる場所を併設し、地元野菜の販売や調理などの効果を生む施設とすることも考えられる。
- ・まちづくりの課題には、緑の保全、都市農業の保全、商店街の活性化、子育てのしやすさ、高齢者の住みやすさなど、いろいろなテーマがあるため、それらと公共施設をどのように連動させて建物を活かすかを考えていく必要がある。

##### ○ 管理運営の効率化検討について

- ・公共施設全体的な取り組みとしては、光熱水費の効率化（ESCO）、施設への自動販売機設

置の入札、Wi-fi 設置等による電子自治体化を進めているところもある。

○ **新たな事業手法等の検討について**

- ・コミュニティ施設や福祉施設に関して、PFIやPPPなど民間のノウハウを積極的に取り入れる手法や市民債を発行するなど市民協働の施策を実施すると良い。民間のノウハウという視点では、例えばスーパー銭湯も良いのではないかな。
- ・駅前商店街等の空き家の有効活用がある。

○ **新たな財源確保・資金調達の仕組みの検討について**

- ・資金調達の方法として、ミニ公募債、レベニューボンド、寄付による個人名のネーミングライツなどが考えられる。

○ **既存建物の耐震性・機能性の検証について**

- ・魅力ある建物とするため、色彩計画等についても考慮すると良い。

○ **施設全体として効果的な維持管理を行う手法の検討について**

- ・建物の長寿命化の研究を行うことも1つのモデルケースとして考えると良いのではないかな。

○ **情報の一元管理について**

- ・保健に関するデータなどを公表し、オープンデータによるエリアマーケティングによって、民間事業者の参入を促す取り組みも考えられる。

○ **全庁的な資産マネジメントの方針検討について**

- ・橋りょう、歩道橋などのインフラ施設を含めて考える必要がある。
- ・鉄道高架下利用等ハコモノ以外も含めて、トータルで計画することをどこかで明記してほしい。

○ **市民との連携について**

- ・市民とのワークショップを実施する際には、意見を反映して1つでも実現させるという姿勢で取り組んでほしい。